

## IAEA(国際原子力機構), ISSC-EBP WA5(津波)第一回会議が仙台で開催されました(2011/11/28-30)

IAEA/ISSC (IAEA: International Atomic Energy Agency・国際原子力機関国際, ISSC: International Seismic Safety Centre・国際地震安全センター)は、EBP/WA5(委員長:東北大学教授 今村文彦)の活動の一環として、2011年7月18-21日にキックオフ会議をウィーン本部で行い、引き続き、今年11月28日(月)~29日(火)にアークホテル仙台(宮城県仙台市)において、「津波ハザード評価ワーキンググループミーティング」を開催しました。また、30日(水)には東北電力(株)女川原子力発電所の津波被害を視察しました。

本ミーティングでは、2011年東北地方太平洋沖地震に伴う津波による原子力発電所等の被害に関する我が国の経験をIAEA及びIAEA加盟国と共有することを目的としています。また、そこから得られる知見を今後の原子力施設の安全につなげるための議論を行い、原子力施設の津波ハザード評価に関するIAEAのセーフティ・レポート(IAEA Safety Report)作成に資することを目指します。

初日は、「2011東北地方太平洋沖地震に伴う津波」に関する地震動・津波の発生メカニズム、原子力発電所等の津波被害について日本国内の主な研究機関から発表し、討議を行いました。翌日には、WA5の各タスク(津波ハザード評価に関するセーフティ・レポート作成等)の本年における活動成果及び来年の活動計画等について各国から報告があり、WGメンバー間で討議を行いました。



WA5の会議での様子(登壇者:今村教授)



WA5の会議後の記者会見の様子(左かわ2番目:今村教授)